

## 54 放射線管理士としての院内外啓発活動について

丸山記念総合病院  
○芦葉弘志 濱守 誠

### 【はじめに】

昨年3月11日の東日本大震災は、未曾有の大災害であった。特に福島第一原子力発電所の災害においては、放射線という見えない恐怖をマスコミが大々的に報道していた。院内においても、受診者、職員から問い合わせが多くあり、放射線についての正しい啓蒙が必要と感じた。

そこで、我々は放射線管理士として院内外にわたり、啓発活動を行ったので紹介する。

### 【方法】

1. 当院診療放射線技師に対して、被ばくの基礎的知識をレポートにしレクチャーした。
2. 職員向けに、病院当局の許可をいただき、放射線情報のペーパーを作成し配布した。
3. 院内教育委員会の要請により、「放射線の正しい知識」として院内講習会を開いた。
4. 院内教育委員会の要請により、「放射線の正しい知識」として地域住民を対象とした市民公開講座を開催した。
5. 放射線被ばく相談コーナーを活用し、診療業務の合間に希望する住民に対し相談業務を行った。

### 【当院放射線技師へ】

市民がニュースを見て予想される問い合わせと答えを作り、レポートにして、診療放射線技師へ周知徹底した。

レポートを作成することで、当直時間帯や管理士が不在の時でも大まかには答えることができた。

放射線科として共通の認識を得ることにより技師個々の主観的な被ばくへの見解を防ぐことができた。

### 【職員向け放射線情報】

震災後、放射線について連日マスコミが報道したため、院内外からの問い合わせが増加した。

院内震災復興管理者会議を毎朝開催した。その席で放射線科技師長より「放射線情報」と題するペーパーの配布を提案し認可される。

3月25日から放射線に関する情報を定期的に配布した。

### 【院内講習会、市民公開講座】

院内教育委員会の要請により「放射線の正しい知識」と題する講習会を開いた。職員の3分の1に出席していただいた。

アンケート結果のコメントの一部は以下である。

- ・放射線について分からないことが多かったので、勉強になった。患者対応に役立てたい。
- ・被ばくについて良く分かった。基本ベースが理解できた。分かりやすい説明でした。
- ・患者様が通常のX線撮影での被ばくを気にされているので、説明の一つになる。
- ・発ガン等のリスクなど、放射線について正しい知識を得ることが出来た。
- ・ポータブルX-Pの安全性が分かった。
- ・マスコミで流れていることで、分からないことも多かったが理解できた。家族にも教えたい。
- ・食べ物の出荷制限基準値が分かった。
- ・福島原発のニュースを見ても、興味がわく。
- ・タイムリーな話題でした。ありがとうございます。

### 【考察】

1. 院内放射線情報は、少しでも職員の不安が解消され放射線についてなるべく正確に伝えることができて良かった。
2. 院内研修会は、看護師だけでなく、事務員や医師も参加していただき、放射線の基礎から説明ができ理解していただけたようで有効であった。
3. 市民公開講座は、大多数の方は理解していただけたが、数人の方には難しい部分もあり改善が必要な事もあると感じた。
4. 被ばく相談業務は、個々の相談者の悩みの程度はさまざまで、一概に統一した応対ができないのが現状である。また気になる方は夜も眠れない方もいた。相談者の技量を含め、『傾聴やカウンセリングの技術を深め相談者に寄り添う被ばく相談が望ましい場合もある』と考えた。